



## 防災教育・自衛隊ガイダンスを実施

近藤 正也

群馬地方協力本部（本部長 防衛事務官 安永 琢哉）は令和3年9月15日（水）に群馬県高崎市に所在する第一高等学校（高崎校）において防災教育及び自衛隊ガイダンスの2本立てで講話を実施した。

本防災教育は、今年が東日本大震災から10年という節目にあたる年であり、講師である群馬地方協力本部・副本部長（福岡2佐）の「あの体験・教訓を風化させてはならない」という強い思いから企画し、学校に提案して実現に至ったものである。

コロナ禍による緊急事態宣言下ということもあり、参加者はリモートによる参加が予想されていた。しかし、当日は対面を希望する生徒が多く、学校側に万全な感染症対策を講じていただき、対面43名、リモート30名、全体で計73名と予想を遥かに上回る参加となった。また、同じ第一高等学校の埼玉県大宮校、千葉県柏校、福島県郡山校、東京都四谷校の4校においてもライブ配信して頂き、多くの生徒に視聴してもらうことができた。

副本部長は災害派遣の経験、キャリアコンサルタントの資格を活かし、熱意溢れる教育を実施した。教育を熱心に受講した生徒からは「災害・危機管理に対する準備の大切さを学べた」「凄く楽しい授業でした」「自衛隊の中にも様々な種類の職種があり、驚いた」等の感想があがると共に、女性活躍の話も聞いた学生からは「自衛隊で働いている看護師の方に会いたい」や「女性自衛官とお話したい」という様々な声も聞くことができた。

群馬地方協力本部は今後も自衛隊をより幅広く知ってもらうと共に、震災の記憶を風化させないためにも各学校や地域のイベントに積極的に参加をし、防災意識の向上に貢献していく。



## 自衛官を目指す息子とともに体験搭乗

清水 加奈子（受験生母）

とある土曜日、相馬原飛行場で輸送機の体験搭乗をさせて頂く機会に恵まれました。梅雨時のため天候が心配されましたが無事決行、いつも地上から眺めているヘリコプターに乗り空から自分の住む地域を見ることが出来てとても感激しました。

相馬原駐屯地から10分足らずの場所に生まれ育った私にとって「自衛隊さん」は親しみと憧れを感じる存在でした。子供の頃から、ドーンという演習の音を聞いていましたし、ジープなどの車両や徒歩訓練する隊員の皆さんの姿を見たりしていました。ですから息子が自衛隊を志願し受験することになり嬉しく思っています。

体験搭乗当日、若い隊員に質問する機会があり、「自衛隊は大変ですか？」と尋ねたところ、「はい、大変です。」と即座に答えが帰って来ました。特に入隊して最初の訓練がきつかったこと、それでも仲間と励みあいながら乗り切ったと笑顔で話してくれました。

息子の希望が叶うかわかりませんが頑張っていて欲しいと思っています。親として全力でサポートし応援したいと思っています。

